

[様式 9 - 1]

## 福祉サービス等第三者評価結果

## 総合評価

受診施設名	チャイルド・ルーム・ヒナ	施設種別	小規模保育事業 (旧体系： )
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会		

平成 31 年 3 月 6 日

総 評	<p>チャイルド・ルーム・ヒナは、保育ママとして2年間開設したのち、平成27年4月小規模保育所として定員9名の0歳児から1歳児を預かる保育施設となりました。隣接する同一法人が運営するせいかだい保育所と連携し、日中の保育から運営面まで協力しながら日々の保育を進めています。周辺は、関西文化学術研究都市の中心に位置し、新興住宅に囲まれた閑静な住宅街にあります。現在も、子どもの人口増加率が全国で1位になる事もある、京都府内では数少ない人口増加地域にあります。</p> <p>保育理念に「一人ひとりの自立支援 一人ひとりの自律支援 共育ち支援」を掲げ、小規模保育所ならではの丁寧な子どもとの関わりを心掛け、子どもの姿や生活の軌跡がよく見える保育が実践されています。子どもの主体性を大事にしており、隣接するせいかだい保育所の資源を有効に活用した保育実践を行っています。</p> <p>法人としても保育方針を大切にしながら、小規模保育所を持つ事で、0・1歳児の少人数ならではの専門性を高める拠点として、独自性のある取り組みへの活用を考えています。特に、一人一人の子どもと保護者に丁寧に関わる中で、保護者からの信頼を得る事に加え、著しい成長がみられる乳児期に保護者の方と一緒に子育てできることを大切に思っています。</p> <p>施設長は、法人が今まで培ってきた保育内容と共に、園独自の保育の質向上にも取り組んでいます。職員は少人数ですが、ベテランから若手に至るまで、施設長とのコミュニケーションを大切にしながら、子どもたちが過ごす園の場が充実した環境となるよう努めています。</p>
特に良かった点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携施設であるせいかだい保育所が経営母体であり、事業経営を一体的に行っています。経営面だけでなく、運営上でもせいかだい保育所の資源を有効に活用し、連携しながら日々の事業経営を行っています。</li> <li>・ 施設長を中心に、小規模ならではの目の行き届いた丁寧な保育と0・1歳児保育の専門性を高められるよう努めています。せいかだい保育所の0・1歳児と共に過ごす事が多く、それぞれの同じ年齢を保育する職員との連携も密に図っています。</li> <li>・ 月間指導計画には保育内容、ねらい、配慮、準備物に対する記入が充実しています。</li> </ul>
特に改善が望まれる点(※)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ チャイルド・ルーム・ヒナとしての特性を活かし、新たな取り組みや工夫を試験的に行うなどの役割を視野に入れて、法人全体にとって良い発信が出来るよう取り組まれるとより良いでしょう。</li> <li>・ 単年度計画については、せいかだい保育所と一体的に行っているため、独自の振り返りは行っておりません。今後は、小規模保育所としての特性を活かした視点から、せいかだい保育所と異なる角度からの振り返りを実施されるとなお良いでしょう。</li> </ul>

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

# 福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

## 【保育所版】 評価結果対比シート

(注)判断基準「a b c」について

【平成28年度以前の基準とは異なるため、当評価結果との対比はできませんのでご留意下さい】

(a)は質の向上を目指す際の目安となる状態、(b)は多くの施設・事業所の状態、(c)はb以上の取り組みとなることを期待する状態、に改定されました。改訂後の評価基準に基づいた評価では(b)が一般的な取り組み水準となり、従前に比べて(b)の対象範囲が広がります。また、改正前に(a)であった評価項目が改正後の再受診で(a)を得られなくなる可能性もあります。

受診施設名	チャイルド・ルーム・ヒナ
施設種別	小規模保育事業
評価機関名	一般社団法人 京都府保育協会
訪問調査日	平成31年 3月 6日

保育所評価基準 対比シート (H29年4月～)

I 福祉サービスの基本方針と組織

評価分類	評価項目	通番	頁番	評価細目	評価結果	
					自己評価	第三者評価
I-1 理念・基本方針	I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	1	①	理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	a
I-2 経営状況の把握	I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	2	①	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	c	b
		3	②	経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	c	b
I-3 事業計画の策定	I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	4	①	中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	b
		5	②	中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	b
	I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。	6	①	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	b
		7	②	事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b	b
I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組	I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	8	①	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	c	b
		9	②	評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	c	b
<p><b>[自由記述欄]</b></p> <p>・保育理念、基本方針について明文化されており、入園のしおり(重要事項説明書)やホームページ、園内にも明示すると共に、入園説明会時に保護者に説明しています。</p> <p>・連携施設であるせいかだい保育所が経営母体であり、事業経営を一体的に行っています。経営面だけでなく、運営面でもせいかだい保育所の資源を有効に活用し、連携しながら日々の事業経営を行っています。地域の福祉ニーズや日々の財務面等の把握によりチャイルド・ルーム・ヒナとして確認できた経営課題に対する取り組みは、せいかだい保育所の関係職員と話し合い、予算の必要な事業については理事会・評議員会で諮り実施するようにしています。今後は、チャイルド・ルーム・ヒナとしての特性を活かし、新たな取り組みや工夫を試験的に行うなどの役割を視野に入れて、法人全体にとって良い発信が出来るよう取り組まれるとより良いでしょう。</p> <p>・法人の中・長期計画が策定されており、それに基づいて単年度の計画を策定しています。今後は、中・長期計画の裏付けとなる収支計画を策定されると良いでしょう。単年度計画については、せいかだい保育所と一体的に行っているため、独自の振り返りは行っておりません。今後は、小規模保育所としての特性を活かした視点から、せいかだい保育所と異なる角度からの振り返りを実施されるとなお良いでしょう。第三者評価についてはせいかだい保育所で定期的に受診しており、法人全体で評価結果を運営改善に繋げています。</p>						

II 組織の運営管理

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
II-1 管理者の責任と リーダーシップ	II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。	10	① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	c	b	
		11	② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b	b	
	II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。	12	① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	c	b	
		13	② 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	c	b	
II-2 福祉人材の確保・ 育成	II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事 管理の体制が整備されている。	14	① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	b	
		15	② 総合的な人事管理が行われている。	a	a	
	II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。	16	① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取組んでいる。	a	a	
		II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。	17	① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a	a
	18		② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	b	
	19		③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	a	a	
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる 専門職の研修・育成が適切に行わ れている。	20	① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	b		
II-3 運営の透明性の確 保	II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取 組が行われている。	21	① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	a	
		22	② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	b	
II-4 地域との交流、地 域貢献	II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されて いる。	23	① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	a	
		24	② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	b	
	II-4-(2) 関係機関との連携が確保されて いる。	25	① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	a	
		II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を 行っている。	26	① 保育所が有する機能を地域に還元している。	b	a
			27	② 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c	b

[自由記述欄]

・施設長は、せいかだい保育所との連携面を中心にしながら、施設として独自で判断出来る部分を中心に保育内容や運営面での改善を図っています。今後は、その役割と責任について職務分担表で明記されている通り、会議等でも表明し、取り組まれるとより良いでしょう。遵守すべき法令等については法人として把握しており、職員への周知も行っています。

・施設長を中心に、小規模ならではの目の行き届いた丁寧な保育と0・1歳児保育の専門性を高められるよう努めています。せいかだい保育所の0・1歳児と共に過ごす事もありながら、チャイルド・ルーム・ヒナのスペースを落ち着いて過ごす場所としての工夫を行っています。

・法人としてキャリアパスを明文化しています。職員の教育・研修に関する計画は、京都府保育協会のキャリアアップ研修を中心に取り組んでおり、職員一人一人の研修計画を作成しています。職員の有給休暇消化率や時間外勤務労働についても毎月確認するなど、就業状況について改善に努めています。

・実習生の受け入れマニュアルを整備し、実習を受け入れています。ボランティアの受け入れは、学生による体験学習の受け入れを法人として実施していますが、自施設としての受け入れ実績はありません。運営内容や財務内容に関しては、ホームページで公開しています。現在、外部監査の活用等による事業や財務に関するチェックは実施していません。

・法人として子育て支援事業「チャイルドひろば」を実施しています。月3回、リトミック教室、クッキング保育、造形遊び、赤ちゃんサロン(ヨガ)などを開催し、地域の未就園児の親子を対象に地域支援を行っています。離乳食教室開催時にはチャイルド・ルーム・ヒナのスペースを提供しています。

### Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果		
				自己評価	第三者評価	
Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス	Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。	28	① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	a	
		29	② 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	b	a	
	Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。	30	① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	a	
		31	② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a	a	
		32	③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	a	
	Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。	33	① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	a	
		34	② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	a	
		35	③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	a	
	Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。	36	① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	a	
		37	② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	a	
		38	③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b	a	
		39	④ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	a	a	
	Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保	Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。	40	① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。	b	b
			41	② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	b
		Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。	42	① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。	b	b
43			② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	b	
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		44	① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b	b	
		45	② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b	a	

#### [自由記述欄]

・全国保育士会倫理綱領の掲示や、「保育の基本」というマニュアル冊子を配布し、人権に配慮した保育、プライバシーの尊重と保護、男女共同参画社会に向けて、望ましい保育士としての資質や態度などについて明記されており、職員への周知にも努めています。

・入園希望者の為に自園の情報や保育方針などを掲載した入園のしおりを見学時に配布しており、園の内容を説明し案内しています。入園説明会でも、入園のしおりをもとに丁寧な説明を心がけています。

・園児の転園の際に保育の継続性に配慮し、保育の記録を提供しています。苦情解決の体制を整備すると共に、保護者アンケートを実施し、内容や対応方法についてまとめて保護者にフィードバックするようにしています。保護者からの要望や苦情に対する記録も整備し、職員会議で情報を共有しています。

・法人と合同で事故防止対策委員会を設置し、定期的に安全委員会を開催し、事故やヒヤリハットの収集、事故予防の検討・分析を行い、改善策を職員に周知するなどリスクマネジメント体制を構築しています。感染症の予防と発生時等の対応マニュアルを作成し、発生状況や予防方法なども保護者に周知しています。災害時の対応体制や避難訓練を定期的に実施しており、せいかだい保育所との連携充実に努めています。

・指導計画は、せいかだい保育所の同じ年齢を担当する職員と共同で策定し、合同で保育するときにスムーズに連携出来るよう取り組んでいます。月間指導計画には保育内容、ねらい、配慮、準備物に対する記入が充実しています。保育管理システムを導入し、各クラスの内容が職員間で情報共有出来るようにしています。評価・見直しについては、法人との連携のもと定期的に実施しています。

A-1 保育内容

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-1 保育内容	A-1-1 (1) 保育課程の編成	46	① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	b	a
		47	① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	b	b
	AA-1-1 (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	48	② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	b	b
		49	③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	b	a
		50	④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	b	b
		51	⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		52	⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		53	⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	非該当	非該当
		54	⑧ 障害のある子どもが安心して生活でき喜んで遊べる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		55	⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	b
		56	⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	非該当	非該当
		A-1-1 (3) 健康管理	57	① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a
	58		② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	a
	59		③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	a
A-1-1 (4) 食事	60	① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	b	a	
	61	② 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている。	a	a	

**【自由記述欄】**

・施設内外は清潔に保たれており、採光、通風も良く適切に維持・管理に努めています。民家を改修し保育スペースを確保している事もあり、家庭的な雰囲気の中で遊んだり、落ち着いたりできるよう配慮しています。子どもたちの造形作品を室内に飾ったり、日中の保育の様子や内容について、ホワイトボードで掲示するなど、保護者に子どもたちの生活内容が伝わるよう工夫しています。

・子どもたちはせいかだい保育所で日常的に過ごす事が多く、子どもが主体的に遊べるよう発達に応じたブロック、ままごと、絵本などのコーナーや手作りおもちゃなどを揃え、自由に遊べるようにしています。保育室には全体的な計画を掲示し、職員だけでなく保護者にも保育内容を知ってもらえるよう努めています。チャイルド・ルーム・ヒナから本園への移動は、散歩を兼ねて毎日園周辺を回って行くようにしています。本園の園庭では冬場には焚火をしており、0・1歳児から焚火に親しむ姿があります。

・朝夕の延長保育の時間帯は、本園で過ごしており、広いスペースで遊んだり、年齢の異なる子どもたちと遊ぶ機会になっています。

**A-2 子育て支援**

評価分類	評価項目	通番	評価細目	評価結果	
				自己評価	第三者評価
A-2 子育て支援	A-2-(1) 家庭との緊密な連携	62	① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	b	b
	A-2-(2) 保護者等の支援	63	① 保護者等が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	a
		64	② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	a
	A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	65	① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	b	b

**[自由記述欄]**

・年2回、保護者との個人懇談を実施しています。また、子どもの様子や成長の報告、保護者からの思いを記録する「すくすくシート」を作成し、園の方針や保育内容について共通の理解が持てるよう配慮すると共に、子どもの様子についても話し合うきっかけとし、家庭との連携を図れるよう工夫しています。個人懇談等の内容を適切に記録するために、記録の方法などの手順も定めています。

・虐待等の疑いがあれば、対応出来るよう仕組みやマニュアルを整備しています。虐待が疑われることが発見された場合は、法人と共同で関係機関と連携しながら対応する体制があります。